

平成28年度教育活動等に対する学校評価書(自己評価結果書)

学校法人二葉学園 葛飾二葉幼稚園

1. 本園の教育目標

「自立と思いやりの心」

- 自ら考え、自ら課題にぶつかり、自ら解決できる子
遊びや保育を通して、知的好奇心や探究心、興味、関心、意欲を引き出し、一人一人の段階に合わせて生きる力に結びつける。
- 自らを律しつつ、他者を思いやれる子
友だちが好き、先生が好き、幼稚園が好きという思いを通して、暖かい風土や雰囲気の中で他者を好きになることで、自分を律しつつ、一人でも遊べ、みんなとでも遊べることを身につけ、さまざまな場面でも他者を思いやり、自分の意思を選択できる力に結びつける。
- 健康で、がまん強いたくましい子
物の豊かさが心や身体に及ぼす影響を踏まえ、幼児期に必要な運動による身体能力の向上、心の発達、神経機能の発達を目指し、心身ともに健康な子どもに育てる

2. 本年度の重点目標

本園は、平成27年4月に施行された子ども子育て支援新制度において、幼保連携型認定こども園に移行し、2年目を迎えた。27年度に引き続き、今まで培ってきた本園の幼児教育の重要性を再認識するとともに、保育の必要な子ども、家庭への保育・子育て支援についても、認識を深めるとともに実行する。

また、学校教育に加えて、児童福祉を含めた教育・保育において、その質を高めるとともに、行政や地域との連携等、多方面において新制度に対応することが最重要課題とする。

3. 教職員による、評価項目に対する自己評価(平成28年2月下旬～3月上旬実施)

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
① 保育の計画性	認定こども園教育要領として、年間計画・月案・週案・日案に沿って、細かい計画を立てつつ保育を実践した。 本年度は昨年度の課題であった長時間児に対しての保育、とくに3, 4, 5歳児の2号認定子どもならではの保育を実践した。 今後はさらなる質の向上において、3, 4, 5歳児の縦の連携への保育の質を高める。	B
② 保育の在り方、乳・幼児への対応	昨年同様、子どもたちの興味関心を引き出し、自発的な活動、意識が持てるよう保育内容・環境を重視して活動を進めた。 生活の中で、子ども同士がさまざまな関わりを持ち、自分たちで解決しようとする気持ちを大切に、達成感を味わわせることを主なねらいとしながら、ねらいを達成できたかを適宜反省しながら翌日以降に生かせるようにした。	B

	遊びの中に学びがあることを念頭に保育を心掛けた。環境構成や日案の狙いの中に、どのような学びを経験させたいのか、明確化させるところには課題が残る。	
③ 教師としての 資質、能力・良 識・適正	主任以下、それぞれの経験年数において求められる資質を認識するとともに、子どもの自主性を育み、保護者の良きパートナーとなり、子育てを支援していく。 子どもたちの園生活において、より5領域を意識できるようにしなければならない	C
④ 保護者への対 応	子どもたちの園での様子は、お迎え時や電話連絡、また保護者との面談等にて連絡を密に取るように心掛けた。直接連絡が必要な事項は、保育終了後に電話連絡をしたり直接顔を見て会話をしたりした。 対応に配慮不足があった場合には、すみやかな対応を心掛けたが、課題が残っている。 保育の必要性のない日時の家庭保育の重要性を伝えていく。	C
⑤ 地域の自然や 社会とのかか わり	園が都内に位置している関係から、自然との関わりに乏しくなってしまうが、7年前に行った自然豊かな園庭整備が年を追うごとに徐々に実現されてきており、虫取り・木の実拾いなどの自然の中で遊ぶ計画を立てて実行した。 小動物（うさぎ、モルモット）を飼育し、愛情飼育を実践。 運動会やお遊戯会では地域の方たちにご来園いただき、子どもたちの様子、園の取り組みなどについて見ていただいた。町会の行事である盆踊りやお神輿などにも積極的に参加し交流を持つことができた。	A
⑥ 子育て支援	子育て広場を定期的を開催し、育児相談も含め、地域の子育て家庭への支援を行った。子育て講演会も数回実施できた。 今後も情報発信、講演等の開催等、子育てに対する啓蒙活動、そして子どもの発達相談にも力を入れていく。	B
⑦ 研修	社会人研修、保育者研修ともに実施。毎日の保育の振り返りとして、5分間研修も実践。夏に2名の職員が救命救急普及員に、約45名の職員が救命救急の講習を受け、東京消防庁より優良事業所の認定を受けた。 引き続き質の向上に努めるとともに、改訂される教育要領に向けた研修も検討する。今後も間の確保が大きな課題だが、保育者全員で問題意識を持っていけるようにする。	B

※自己評価結果の表示方法

A…十分達成された

B…達成された

C…取り組んだが達成が十分ではない

D…取り組みが不十分であった

4. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

従来の教育時間としての、子どもの『自立と思いやりの心』の育成を目指すための目標に関しては今まで通り実施してきている。その成果として、園児募集（1号認定こども）に関しては一応の結果を得ることができた。

しかしながら、27年度に、子ども子育て支援新制度の施行に伴い移行した幼保連携型認定こども園として課題にあがった保育計画、職員の意識、保護者対応等の課題を引き続き次年度の課題とし、質の向上を目指す。

地域の子育て拠点として1年間実践してきたが、今後はより内容を充実し、地域にとってより存在感のある子育て支援施設を目指す。

28年度も各領域の目標とねらいを全職員での共通理解を深め合い、園目標の具現を目指して実践していく。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。